経営支援員と二人三脚

61人の経営支援員は地域の小規模・中小企業の経営改善と持続的発展に向け、支援を行っています。経営者とのコミュニケーションをしっかりと取りながら、課題の解決とさらなる発展に向けた支援活動を展開中。

歴史ある「楽焼」で新しいものづくりに挑戦

伝統技法の展開でライフスタイルに応じた商品を開発 建築業界への新たな参入

楽焼は、ろくろなどを使用せず、手とへらだけを使って成形する「手捏ね」に特徴があり、京焼・清水焼の中でも希少な焼物として知られています。このコロナ禍により、伝統産業を取り巻く環境は厳しくなりました。伝統を守るだけでなく、現代のライフスタイルに応じた商品の提案を通じて、新たな顧客づくりに取り組む必要があります。

今から3年前、楽焼の技法を使った陶板を開発し、京都のホテルで壁の装飾に採用されたことで、インテリア商材として新たな可能性に気づきました。さらなるブラッシュアップを目指して、京都商工会議所が主催する国内販路開拓事業「あたらしきもの京都」に参画、建築デザイナーとのコラボで、独特の風合いが美しい「楽タイル」を開発しました。建築・インテリア分野は未知の市場で、どのように販路を広げていけば良いか、不安が募りましたが、経営支援員のアドバイスなどを参考に「京都のバックストーリーを大切にしたものづくり」を発信していくことで、少しずつ注文が舞い込むようになりました。

補助金の有効活用で販路開拓に繋げる取組を実施 経営ヒントを見出す

「楽タイル」は、今までの陶器とはまったく異なるもので、その価値を伝えるためには、お客様に実際に見て、触れて、感じていただくことが求められます。昨年、京商の支援で補助金を活用し、「楽タイル」を施工したショールームを当社内にオープンしたほか、ホームページのリニューアルを行い、「楽タイル」をイメージしていただける場を作りました。また、新商品のカタログも作成し、BtoCの販売力強化に取り組みました。

補助金申請をはじめ、何か新しいことに取り組む際に必ず必要となる書類作成で、経営支援員は、私たち事業主の考えを冷静に捉え、他者に伝わるよう助言してくれる、まさに二人三脚でサポートしてくれる存在です。

また、その時々に抱えている課題や困り事に応じて必要な情報を提供してくれ、コロナ禍においても事業を前向きに継続させていくヒントを見出すことができました。

「楽タイル」は、他県でもホテルの客室ルームナンバーの表示に使用されるなど、タイルの魅力に気づいてくれる方々が増えてきました。

今年度も引き続き「あたらしきもの京都」に参加しています。これからも京商と二人三脚で、楽焼の新たな魅力を掘り起こし、自社はもちろん、京焼・清水焼の発展につなげていくことができればと思います。

写真左の茶碗は、吉村氏が還暦を迎えられた令和元年に、躍動感のある作品を作りたいという想いを込めて作られた「黒楽」の茶碗。右は、令和4年の歌会始の御題である「窓」をテーマに作られた作品。窓から見た月を連想させ、赤、黒、白の色合いが美しい。リニューアルされたホームページで、吉村氏の美しく力強い作品を、ぜひご覧ください。

企業情報

有限会社楽入

（代　表）吉村 重生
（住　所）京都市南区東九条明田町1-2
（TEL）075-691-7919
（WEB）https://www.rakunyu.com/